

世界旅打ち気分

●第26回・ややマニアックなアメリカの競馬場2場

須田鷹雄



観覧車をバックに馬たちが走る
ティモニウム競馬場



レイドソダウンズ競馬場の場内風景



レイドソダウンズの指定席からコースを望む

写真のカラー版は
<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>
の#グリーンファーム会報#2020年6月号
でご覧いただけます

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

オーストラリアの話が続いたので、今回はアメリカに舞台を移してみよう。今日はおそらくこれを読んだところで皆さんのが「行ってみよう」とはならない、マニアックなところを2つ紹介する。

ひとつめは、レイドソダウンズ競馬場。レイドソと聞いて、その場所が瞬時に分かる日本人はそうぞういないだろ。州で言えば「コメキシ」州だが、「コメキシ」州の場所とて日本人にはそう知られていない。アメリカ地図で言うと真ん中からやや西寄りで南端。メキシコに接する州である。

最寄りの大空港ではどこが近いのか考えてみたが、おそらくはアルバカーキ。そこから200マイル弱で、車で3時間というところだ。競馬場があるのはその名の通り「レイドソダウンズ」という集落のほうで、「レイドソ」とは5マイルくらいの距離で、人口はその他2つ3つの集落も併せて約2万人なので、ごく小さな町だ。しかし、この小さな町でのちほど説明する大レースが行われるのである。

競馬場は、山裾の盆地のようなところにあり、隣接する道路の路

を考えると全米のベストギフトショップと認定したいほどである。カジノも併設されている。「いく小さいカジノでマシンのみだが、非開催日もギャンブルおやじが集まる良いカジノだ。場所が場所なのでまた行く機会があるか分からないが、個人的には「もう一度行ってみたい」と思う競馬場のひとつである。

今回紹介するもうひとつの競馬場は、ティモニウム競馬場。ティモニウムというのは、所在地の名前で、おそらく正式には「メリーランド州フェア競馬場」かと思う。

以前の連載でカリфорニア州のフェア競馬をご紹介したが、フェアというのは郡で行うものでなく、州のフェアといつものもあら。メリーランド州のフェア競馬が行われるのがこの競馬場というわけだ。

それ以外の期間はどう使われているのか分からぬが、常設厩舎もあるし、セール会社のファシングティpton社の事務所があるのでセリも行われるはず。いずれにしてもメリーランド州馬事の拠点という感じである。

面は競馬場より高くなっているので、まさにすり鉢そのもののような感じになっている。

「コメキシ」州といえば両脇のアリゾナ州やテキサス州と同様、原野が広がっているイメージだが、その認識でそう間違つてはいない。瑞々しい植物はあまりなく、サボテンや渴きに強い樹木の緑のみが目に入る。

「のレイドソダウンズ競馬場、サラブレッドのレースもあるが、メインとなっているのはクオーター馬のレースだ。内回りコースがサブレッド用、外回り(ショート)がラップレッド用である。

「のレイドソダウンズは、オーターホースというのが基本的な運用である。

クオーター馬のレースについては他の競馬場に絡めて既に紹介したかもしれないが、クオーター4分の1マイル(約400m)を速く走ることに特化して作られた品種で、アメリカの場合、レースの多くは中西部で行われる。対照的にハーネス(繫駕歩馬)車を曳いて速歩で競馬をする)はほとんどが東部で、例外はサクランボくらい。それぞれ元の子供たちにとって年に一度の呼び物が移動遊園地で、これは地元の子供たちにとって年に一度の楽しみとなっている。

移動遊園地の規模はフェアの規模に比例するところがあり、カリフォルニアでいうとフレザントンはそこそこの規模だが、アーヴィング(テイル)は、じんまりといった違いがある。ティモニウムは州の共進会だけあって遊園地の施設も立派。また、競馬場のスタンドから見ると、バックに観覧車が見える形で直線の攻防が行われるので、競馬ファンから見た景色としても楽しい。

スタンドは年に一度しか使わないので、立派とか豪勢といふものではないが、2階建てで2階にはちょっとしたレストランがある。地元のレストランが運営にあたっているようだ。メニーも充実。お店の人たちも、競馬場で食べたのをきっかけに「本店のほうに来てもらおう」ということで頑張っている。1階にはいかにもアメリカの馬文化の歴史をつかがわせるものもある。

オーターホースの大レースが毎年行われる。オールアメリカンピューチュリティ。2歳馬のチャンピオンを決める一戦で、賞金総額は300万ドル。ケンタッキークラービーのは2019年の話。つまりアメリカの世代限定戦で長らく最高賞金だったのがアメリカンフューチュリティであり、いまも首位タイといふことだ。レイドソダウンズのようないいとこだ。都市とは呼べず、集落に近いよな、都市とは呼べず、集落に近いよなといふことで、そのようなイベントが行われているというのは大きな驚きである。

「のレイドソダウンズは、まずはちよつとした競馬博物館。オールアメリカンフューチュリティやクオーター馬のレースそのものの歴史を紹介する展示室で、そこそこのボリュームがある。

ふたつめはギフトショップ。こんな地元民しか来ないような競馬場にギフトショップを作つて誰が買ふのか分からないが、女性店主の趣味なかなか品揃えが充実したお店だ。床面積ではサンタクルーズやチャーチルダウンズに負けるものの、小競馬場で頑張っていること

かという感じのハンバーガー屋もあるし、ビールとともに生牡蠣(暑い時期なのでちよつと怖い)を

なかつただる」という商品(大きいものだと、ジャグジー式の浴槽とか)も売られている。もうひとつの呼び物が移動遊園地で、これは地元の子供たちにとって年に一度の

馬を走らせる)はほとんどが東部で、例外はサクランボくらい。それぞれ

元の子供たちにとって年に一度の

駕歩馬車を曳いて速歩で競馬をする)はほとんどが東部で、例

外はサクランボくらい。それぞれ

元の子供たちにとって年に一度の

駕歩馬車を曳いて速歩で競馬をする)はほとんどが東部で、例

外はサクランボくらい。それぞれ

元の子供たちにとって年に一度の

駕歩馬車を曳いて速歩で競馬をする)はほとんどが東部で、例

外はサクランボくらい。それぞれ

元の子供たちにとって年に一度の

駕歩馬車を曳いて速歩で競馬をする)はほとんどが東部で、例